法蔵寺の歴史（八）

病気平癒の石観音

法蔵寺に残る石仏

これまで、紹介しましたとおり、法蔵寺はいくつかの戦火と災害を経ています。また、江戸幕府の時には、お寺ごとの移転もありました。

従って、法蔵寺の歴史を残す物は多くはありません。しかし、中には、今も信仰を集める霊験あるものがいくつかあります。これを機会に紹介したいと思います。

まずは正月の時にのみ、身近にすることが出来る**『病平癒の石仏』**です。

これは、石製の観音像です。いつ頃作られた物かは不明ですが、江戸時代にはすでにあったようです。

病平癒と学業成就

この観音像の特徴は、直接触れることで**『病平癒**（やまいへいゆ：病気が治る）**』**の御利益があることです。

自分の体に、痛みや不自由な所があれば、この観音像の同じ部分をなでると快復すると伝えられます。

目をなでると視力や眼の病。腰をなでると腰痛。胸をなでると心臓系の病。頭をなでれば、**『学業成就』**にも御利益があるとされます。

東京巣鴨の「とげぬき地蔵」と同じように、「病快復」「志（こころざし）成就」を願った人々がお参りにきたそうです。

この観音像、その昔はきれいな色が施されていたそうです。しかし今はわずかにその痕跡があるのみで、ほとんど素材の石が露出している状態です。いかに多くの方に触れられ、なでられたかが分かります。

触れる機会は正月限定

これも昔から伝わっていることですが、この観音像は、正月のときだけ触れることができます。かつては、姿を見ることも一年に一度の**『秘仏』**でした。

現在は、多くの方にご覧頂こうという現住職の考えで、本堂の北側に開帳された状態で安置されています。でも触れる機会は、やはり年明けの正月からご年始（毎年一月十六日）までと限られています。

▲病平癒の観音像

長野善光寺ご開帳記念 法蔵寺団体参拝を 五月に行います！

今年は、七年に一度の長野善光寺の『前立本尊(まえだちほんぞん)のご開帳』の年です。善光寺は、法蔵寺の宗派「浄土宗」の大本山でもあります。この機会に、ぜひ檀信徒の皆さんと参拝旅行をしたいと思います。

善光寺ご開帳の他、国宝松本城、世界遺産『富岡製糸場』見学など、色々楽しみを盛り込む予定です。

詳細は別紙を参照して下さい。**定員は四〇名。**先着順です。ぜひお申し込み下さい。

日時
平成二十七年
五月二十三日(土)
～二十四日(日)
費用：三万五千円